

株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
証券コード	7856
事業年度	11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	1月
基準日	定時株主総会 10月31日 期末配当 10月31日 中間配当 4月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 当社ホームページアドレス http://www.hagihara.co.jp/ ※ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)

株式のお手続きについてのご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、ご不明な点は口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店におきましてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

第50期 年次報告書

平成23年11月1日～平成24年10月31日

<http://www.hagihara.co.jp/>

最新のトピックスをはじめ、当社に関するさまざまな情報がご覧いただけます。



おもしれえ
直ぐちゅうりゃく

株主の皆様におかれましては、平素よりご高配をいただき、厚く御礼を申し上げます。

萩原工業は記念すべき創立50周年である平成24年10月期が終了しましたので、ここにご報告いたします。

第50期は、東日本大震災の復旧・復興が想定されたほど進まず、また海外においては欧州債務問題や中国の景気減速といった不透明な環境での企業経営を強いられました。このような状況下ではありましたが、「原点回帰 先ず感謝、そして新たな決意を！」をスローガンに、様々な課題を社員一丸となって乗り越え、過去最高益で終えることができました。そして、新たな創業の第51期がスタートし、当社の次なる半世紀の幕が開かれました。

企業経営とは「守ること」「捨てること」そして「付加すること」の連続ではないでしょうか。これからも「切る」「伸ばす」「巻く」を中核技術として、フラットヤーンとモノフィラメントの関連製品、そしてスリッターを始めとした関連機械製品を通じて、世のため人のために役立つ会社であるように変革を続けていく所存です。

経営方針

当社グループは、「長年培ったフラットヤーン技術を大事にしながら、常に革新し続け、世のため人のために役立つ会社であろう」を経営理念として掲げ、顧客の便益性に応え最高の品質とサービスを提供し、提案型マーケティングと圧倒的なコスト競争力を持ち、独創的な製品を開発することを基本方針といたしております。

平成25年10月期におきましては、「新たな創業を牽引する新製品開発を全社員参加で遂行す」をスローガンに掲げ、中期経営計画（MI53）の達成に向けて、「Marketing」・「Management」・「Innovation」においてそれぞれ具体的施策を遂行してまいります。そして、質実ともに優良企業への成長を目指して、株主・取引先の皆様並びに従業員との共存共栄を図り社会への一層の貢献を行うことを経営指針として活動してまいります。

対処すべき課題

当社グループは、激しさを増す市場競争のなかで、中期経営計画（MI53）の実行により、フラットヤーン関連事業で確固たる地位を築くことに努めます。

そのためには、コスト競争力、新製品・高機能化製品の開発、海外市場開発のそれぞれ強化を図るとともに、連結最適生産体制の再整備、人材育成、そして徹底した安全と品質向上を通じて、当社を取り巻く様々なリスクに対して揺るぎない経営体質の構築にグループ一丸となって取り組んでまいります。

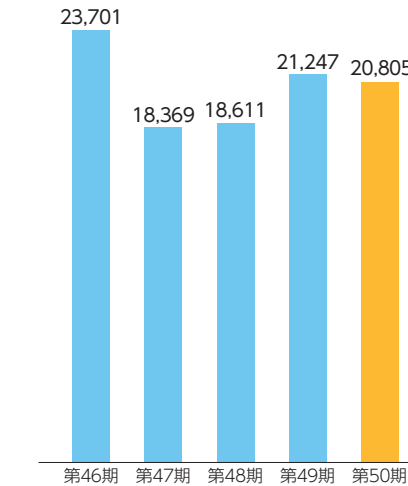
株主の皆様には、引き続きご支援ご鞭撻をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長 萩原 邦章

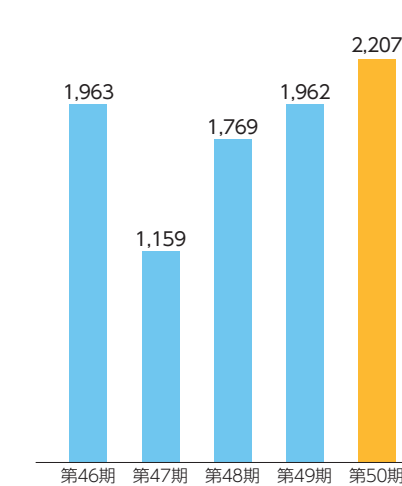
売上高(連結)

(単位：百万円)



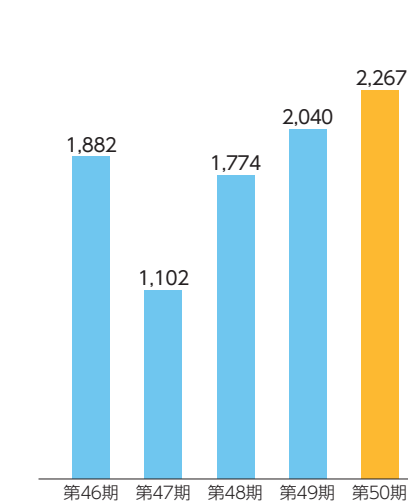
営業利益(連結)

(単位：百万円)



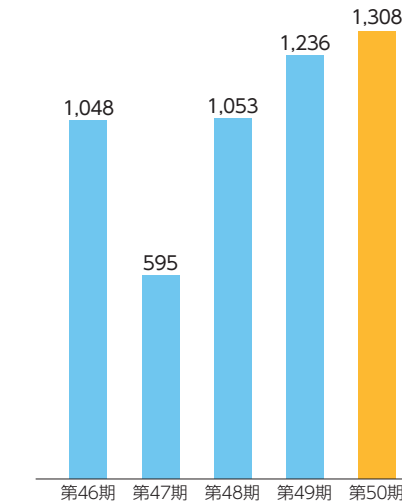
経常利益(連結)

(単位：百万円)



当期純利益(連結)

(単位：百万円)



平成24年10月期 決算サマリー(連結)

■ 売上高
208億05百万円
前期比 **2.1%** 減

■ 営業利益
22億07百万円
前期比 **12.4%** 増

■ 経常利益
22億67百万円
前期比 **11.1%** 増

■ 当期純利益
13億08百万円
前期比 **5.8%** 増

失敗を恐れない開発精神を引き継ぐエポックメイク



TOPICS

創立50周年を記念した 地域貢献活動

長きにわたって当社を支えていただいた地域社会へ感謝の気持ちを込め、創立50周年を記念した地域貢献活動として、電気自動車と交通安全自転車シミュレーターを寄贈いたしました。

平成24年5月に倉敷市へ寄贈した電気自動車「ミニキャブ・ミーブ」1台は、本庁の公用車として倉敷市内で広く使用されております。

また同年11月には岡山県交通安全対策協議会を通じ、岡山県内の警察署へ「交通安全自転車シミュレーター」4台を寄贈。自転車シミュレーターとは、自転車の運転を模擬体験することで自転車の交通ルールやマナーを分かりやすく学習できる交通安全教材で、岡山県内4拠点の各所轄警察署において地域の皆様の交通安全教育に活用されております。

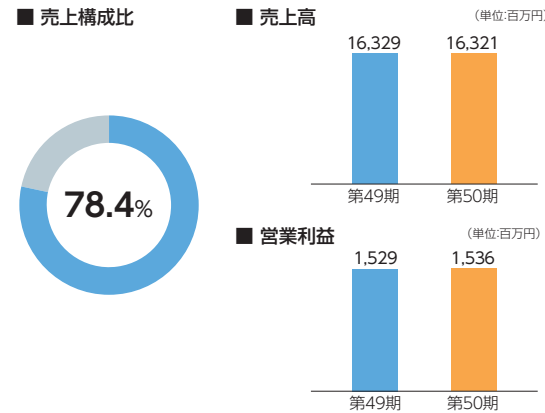
今後も地域社会に対する感謝の気持ちを忘れることなく企業活動に取り組んでまいります。



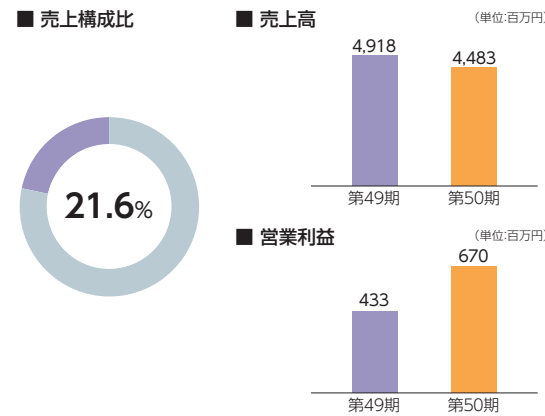
業績全般の概況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、景気は持ち直し傾向にあるものの、個人消費の伸び悩み、厳しい雇用情勢が続くなか、海外では欧州債務問題の長期化、中国の景気拡大の減速など、対外経済環境を巡る不確実性も高く、先行き不透明な状況で推移いたしました。

合成樹脂加工製品事業



機械製品事業



このような状況のもと、当社グループにおきましては、「原点回帰 先ず感謝、そして新たな決意を！」を社長方針に掲げ、第50期という節目を迎える年であり、新しい半世紀へ雄飛する年にすべく、平成27年10月期を最終年度とする中期経営計画(MI53)を策定し、事業基盤の整備、収益構造の強化を重

点指針として各種施策に取り組んでまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績は、売上高208億5百万円(前期比2.1%減)、営業利益22億7百万円(同12.4%増)、経常利益22億67百万円(同11.1%増)となり、当期純利益は13億8百万円(同5.8%増)となりました。

概況

合成樹脂加工製品事業におきましては、東日本大震災復興・除染関連商材を含めた拡大戦略製品を中心に、また、海外ではコンクリート補強繊維の拡販を積極的に進める一方で、子会社を含めた最適生産体制の構築及び原材料の海外調達を拡大を図りました。

インドネシアの子会社「ハギハラ・ウエストジャワ・インダストリーズ社」におきましては第二工場も順調に稼働を開始し、中国の子会社「青島萩原工業有限公司」ともに業績は概ね順調に推移いたしました。

トピックス ファジアーノ岡山の練習場が人工芝用原糸・基布を採用

平成24年10月、岡山市が整備するサッカーJ2・ファジアーノ岡山の練習場「岡東サッカー場」の人工芝グラウンド(約1ヘクタール)に、当社のロングパイル用人工芝原糸と基布が採用されました。ロングパイル人工芝は天然芝の風合いを持ち、選手が怪我をしにくいといったメリットがある反面、夏場になると表面温度が70℃超になることが難点でした。当社では従来品に比べて表面温度を約8℃下げることが可能な温度抑制機能のある人工芝原糸の開発に成功し、同時に世界最高水準の耐久性を実現しました。

当社の人工芝原糸は、本サッカー場をはじめ各地で採用され、皆様にご愛用いただいております。



概況

機械製品事業におきましては、これまで好調であった液晶テレビの販売不振の影響を受け、光学系フィルム用スリッターは低調な動きとなりましたが、バッテリー(電池)やスマートフォンに関連した業界向け機能性材料用スリッターが堅調に推移しました。また、一次スリッター(大型)を受注開発するなど新規分野の開拓も行いました。押出関連機器では、台湾企業との業務提携により機能と価格を追求した再生機を上市するなど積極的な展開を図ってまいりました。

トピックス 台湾においてプラスチック再生機の生産を開始

プラスチック再生機とは、廃プラスチックを粉砕し熱を加えて溶解した後、不純物を取り除いてペレット状にする機械です。

当社では台湾のプラスチック加工機械メーカーと業務提携して海外生産を開始、部材の海外調達や人件費低減、またVE手法を用いた機能と構造の見直しを図ることにより、販売価格を国内の半分程度に抑えています。

今後はプラスチック再生機の量産機種を台湾に移管し、本工場においてオーダーメイド製品やペットボトル用の再生機の生産を進め、お客様のニーズに沿った再生機の提案を行ってまいります。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期 平成23年10月31日現在	当期 平成24年10月31日現在
資産の部		
Point 1 流動資産	10,469	11,209
Point 2 固定資産	7,926	8,308
有形固定資産	6,046	6,425
無形固定資産	210	166
投資その他の資産	1,669	1,716
資産合計	18,395	19,517

Point 1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ受取手形及び売掛金が減少しましたが、現金及び預金等が増加したこと等により112億9百万円となりました。

Point 2 固定資産

固定資産は、生産設備の増設、更新及び合理化投資等により前期末に比べて増加し、83億8百万円となりました。

Point 3 流動負債、固定負債

流動負債は、短期借入金が増加したこと等により前期末に比べて増加し、59億46百万円となりました。
固定負債は、長期借入金が減少したこと等により11億71百万円となりました。

	前期 平成23年10月31日現在	当期 平成24年10月31日現在
負債の部		
Point 3 流動負債	5,777	5,946
Point 3 固定負債	1,278	1,171
負債合計	7,056	7,118
純資産の部		
株主資本	11,675	12,720
資本金	1,274	1,274
資本剰余金	889	889
利益剰余金	9,513	10,558
自己株式	△ 2	△ 2
その他の包括利益累計額	△ 336	△ 321
その他有価証券評価差額金	1	3
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	△ 338	△ 325
少数株主持分	0	0
純資産合計	11,339	12,399
負債純資産合計	18,395	19,517

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 自平成22年11月1日 至平成23年10月31日	当期 自平成23年11月1日 至平成24年10月31日
売上高	21,247	20,805
売上原価	15,573	14,925
売上総利益	5,674	5,879
販売費及び一般管理費	3,711	3,672
Point 4 営業利益	1,962	2,207
営業外収益	163	164
営業外費用	85	104
Point 4 経常利益	2,040	2,267
特別利益	5	—
特別損失	28	32
税金等調整前当期純利益	2,017	2,234
法人税、住民税及び事業税	854	975
法人税等調整額	△ 72	△ 48
少数株主損益調整前当期純利益	1,236	1,308
少数株主利益	0	0
Point 4 当期純利益	1,236	1,308

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point 4 営業利益、経常利益、当期純利益

継続的な新製品の市場投入に加え、戦略製品への集中を展開した結果、営業利益22億7百万円、経常利益22億67百万円、当期純利益13億8百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期 自平成22年11月1日 至平成23年10月31日	当期 自平成23年11月1日 至平成24年10月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,178	2,416
Point 5 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 934	△ 1,382
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 747	△ 474
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 6	3
現金及び現金同等物の 増減額（減少：△）	△ 510	562
現金及び現金同等物の 期首残高	1,749	1,238
現金及び現金同等物の 期末残高	1,238	1,801

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point 5 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローはインドネシア子会社の新工場建設等により△13億82百万円となり、現金及び現金同等物の期末残高は18億1百万円となりました。

■株式の状況

(平成24年10月31日現在)

発行可能株式総数 18,000,000株
 発行済株式総数 6,598,800株
 単元株式数 100株
 株主数 1,470名

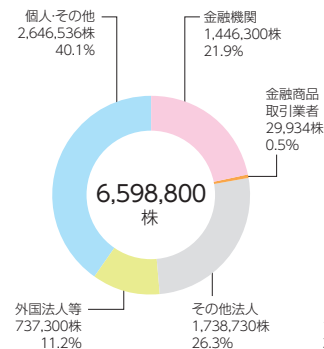
大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
萩原株式会社	927	14.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	662	10.03
萩原工業従業員持株会	379	5.74
日本ポリケム株式会社	305	4.62
日本ポリエチレン株式会社	305	4.62
ゴールドマンサックスインターナショナル	286	4.34
萩原邦章	266	4.03
野村信託銀行株式会社(投信口)	213	3.23
萩原賦一	197	2.98
ドイチェンバンクアゲー・ロンドンビー・ノットリティー・クライアツツ 613	112	1.70

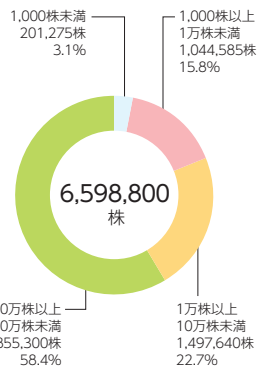
■株式分布状況

(平成24年10月31日現在)

所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



■会社概要

(平成24年10月31日現在)

商号 萩原工業株式会社
 本社 〒712-8502
 岡山県倉敷市水島中通一丁目4番地
 TEL.086-440-0860
 FAX.086-440-0869
 設立 昭和37年（1962年）11月29日
 資本金 12億74百万円
 従業員数 432名
 主な事業内容 ポリエチレン・ポリプロピレンを主原料とした合成樹脂繊維のフラットヤーンを用いた関連製品及びフラットヤーン技術を応用したスリッター等産業機械の製造・販売

■役員

(平成25年1月24日現在)

代表取締役社長	社長執行役員	萩原 邦章
代表取締役	専務執行役員	森岡 敏正
取締役	常務執行役員	田中 稔一
取締役	常務執行役員	道廣 和生
取締役	常務執行役員	柳原 雅一
取締役	執行役員	浅野 和志
常勤監査役		吉川 龍男
監査役		中原 裕二
監査役		石井 辰彦
執行役員		浅野 幾弘
執行役員		依田 伸二
執行役員		小合 秀明
執行役員		飯山 辰彦
執行役員		笹原 義博
執行役員		山本 実治

表紙の言葉の所以

創業の精神

The Founder's Principle

創業者萩原賦一之像

おとしこれえさむげんひなむ

創業者二代目萩原賦一の口癖だった



二代目萩原賦一は太平洋戦争後に我が社の源流にあたる萩原商店を復興させ事業拡大を目論んでいた昭和三十年代日本の高度経済成長長期に、家業の花ゴザ生産における経糸を、綿糸からポリエチレン製モノフィラメントへ代替することを目的として、昭和三十七年十一月に萩原工業株式会社は倉敷市水島の地に設立された。昭和三十九年にはポリエチレン製結束紐をヒントに、創業間もない社員達と力を合わせフラットヤーンを考案し我が社の礎を築き上げた。創業者の卓越したヒラメキ力と社員の努力により、新規フラットヤーン製品の殆どを我が社が開発し世に送り出してきた。また、モノフィラメントとフラットヤーン製品のみならず、関連機械の製造販売への奇抜なる事業展開は他社に真似の出来ない我が社の隠れた競争優位の潜在能力を創出している。創業者の失敗を恐れない開発先行パイオニア精神こそが我が社の競争優位であり、守り続けなければならない我が社の企業文化である。